

創大スポーツ

2024年(令和6年)1月3日(水)

第100回 箱根駅伝号外

【発行】創価大学企画広報課

〒192-8577 東京都八王子市丹木町1-236 TEL042-691-9442

3年連続

出雲全日本大学選抜駅伝競走

全日本大学駅伝対校選手権大会

学生3大駅伝出場決定

往路7位、復路7位 総合8位

一気に強豪校へ

1月2日、気温5度という条件のなか、出場23校の選手たちが東京・讀賣新聞社前を一齐にスタート。1920年(大正9年)2月14日早大・慶大、明大、東京高師(現筑波大)の4校で開催された箱根駅伝、それから1世紀を経て今年100回の記念大会が始まった。

2015年(平成27年)初出場を果たした創価大駅伝部は、わずか6年後の第97回大会で往路優勝、総合2位という快挙で強豪校の仲間入りを果たした。以降シード常連校として常に箱根駅伝を盛り上げてきた。

第100回東京箱根間往復大学駅伝競走

実った創・攻・主

そして迎えた今回、昨年箱根を走った6人の主力4年生が抜けて戦力不安がささやかれていたが、榎木監督の指導にこたえた選手たちは出雲駅伝で準備を整え、全日本駅伝も6位として不安を一掃。そして迎えた本戦、今年のスロウガン『創・攻・主』を掲げた創価大の選手たちは、大成としてのぞみ、1、2年生の若い力と上級生の経験豊富な走りでの箱根路を疾走。5年連続のシード権を獲得。

チーム一丸で最後まで攻め続け見事な走りだった。新しい力が躍動したことを考えると第97回大会を越える日は近い。

第100回箱根駅伝総合順位

1位	青山学院大学	10時間 41分 25秒
2位	駒澤大学	10時間 48分 00秒
3位	城西大学	10時間 52分 26秒
4位	東洋大学	10時間 52分 47秒
5位	國學院大学	10時間 55分 27秒
6位	法政大学	10時間 56分 35秒
7位	早稲田大学	10時間 56分 40秒
8位	創価大学	10時間 57分 21秒
9位	帝京大学	10時間 59分 22秒
10位	大東文化大学	11時間 00分 42秒
(以上シード権獲得)		
11位	東海大学	11時間 01分 52秒
12位	国士舘大学	11時間 01分 52秒
13位	中央大学	11時間 01分 58秒
14位	立教大学	11時間 03分 04秒
15位	日本大学	11時間 06分 06秒
16位	日本体育大学	11時間 06分 30秒
17位	順天堂大学	11時間 06分 42秒
18位	駿河台大学	11時間 06分 58秒
19位	中央学院大学	11時間 07分 28秒
20位	明治大学	11時間 07分 28秒
21位	神奈川大学	11時間 07分 37秒
22位	東京農業大学	11時間 09分 16秒
23位	山梨学院大学	11時間 11分 11秒



シード5年連続獲得

往路

レース展開に大きな影響を与える1区、5区過ぎて先頭4校と後方集団に分かれる。後方待機の桑田は17区六郷橋登り手前でスパット、2位で2区ムチーニに託す。ムチーニは10区過ぎに単独2位に上がるも後半ややペースダウンで3位に。3区山森も降り出した雨に苦戦を強いられ8位に後退。4区野沢は15区過ぎ酒匂橋では一時7等しい加わるも8位のまま5区へ。吉田は早く7位に上がり前を追うが厳しい雨の山登り。前との差が詰まらない。駅伝で一番苦しいといわれる前の選手が見えない単独走を走り抜けて往路は7位でゴール。

復路

6区創価に送れると5秒差で16校が一斉スタートの大混戦。川上はすぐに集団に吸収されるが、中盤賢威の巻き返して区間3位、5区に浮上。7区石丸はスタートから終始落ち着いた走り5位を堅守。いよいよ勝負所へ。8区も1年生小池、順位が目まぐるしく変わる中、7区に順位を落とすも前との差は僅か。9区吉田凌がスタート。目まぐるしく順位の変化する中、粘りの走りをみせるもまた一つ順位を落とす。1区から繋いできた襷を受けた10区上杉が勢い良くスタート。5年連続シード権獲得ゴールを目指す。そして復路7位、総合8位で大会を終えた。

【選手写真提供(c)Getsuriku】

次なる歴史へのスタート



復路ゴール



往路ゴール

襷に込められた思いを繋ぐ

5区 小田原～箱根 20.8km | 4区 平塚～小田原 20.9km | 3区 戸塚～平塚 21.4km | 2区 鶴見～戸塚 23.1km | 1区 大手町～鶴見 21.3km



吉田 響
経済学部3年 静岡国出身 東海大静岡翔洋高校

1時間12分38秒 区間順位 9位
目標タイムとは程遠い結果となり、「創価大学を良い順位に押し上げる」という役割を果たすことができませんでした。悔しい気持ちが入り込んでいますが、他校のライバルの走りからも多くの刺激を受け、新たな目標を見つけることができました。寒さの影響もあり、自分の強みであるスピードを発揮できず、箱根駅伝の難しさを感じました。応援してくださるファンの方々や関係者の皆さまの支えがあったからこそ、もう一度箱根駅伝に戻ることができました。感謝の思いを胸に、ラストイヤーの来年は総合優勝と5区で69分を切ることを目標に一から頑張ります。



野沢 悠真
経済学部2年 宮城県出身 利府高校

1時間03分03秒 区間順位 15位
序盤からあまりスピードに乗ることができませんでした。自分としては、帝京大と競り合った終盤以降は粘りの走りをすることができました。ラストは離されてしまいましたが、沿道からの応援が力になり、最後まで粘りの走りを心がけることができました。同期の黒木陽向が付き添いをしてくれて、「練習を積んできたから悠真ならいけるよ」と声をかけてくれました。今回4区を経験させていただき、課題としてメンタル面やスピード面の強化が必要だと感じました。来年は3年生になるので、チームの主力としての自覚を持ち、チームや後輩たちを引っ張る存在になりたいと思います。



山森 龍暁
経営学部4年 福井県出身 鯖江高校

1時間04分19秒 区間順位 19位
去年と同じ3区を走らせていただきました。1、2区の勢いのままに去年の反省を活かして走ろうと考えていたのですが、前半から自分の思いと身体が一致せず、苦しい走りとなりました。レース前に仲間たちから「あとは任せろ」との声に、走れなかった4年生の思いも背負い、「最後まで頑張ろう」という思いで走りました。昨日、地元の福井県周辺で強い地震があり、心配な気持ちもありましたが、自分の走りをみて少しでも頑張ろうと思ってもらいたいという気持ちで走り切りました。沿道からの「がんばれ」という言葉が一歩前へ踏み出す原動力になりました。



ステインフン・シュニ
経済学部1年 ケニア出身 ミクニ高校

1時間06分43秒 区間順位 5位
今日のレースはとても競争が激しく、気温も低く寒かったです。自分にとっては初めての箱根駅伝だったので難しさもありました。レース前に榎木監督からかけてもらった「自信を持って楽しんで」との言葉が特に印象に残っており、レース中はその言葉を意識して走っていました。結果、目標タイムを上回る事ができて1時間6分台で襷を繋ぐことができて良かったです。沿道の皆さんの大声援の中でも留学生の応援がとても励みになりました。来年はさらに良いタイムで走れるように頑張っていきたいと思っています。



桑田 大輔
文学部4年 鳥取県出身 八頭高校

1時間01分25秒 区間順位 2位
最終、冷静にレースを進めることができました。途中で後続に追い抜かれたときも最後の勝負に備えて力を温存することで、最後に勝ち切ることができました。レースがハイペースになることを想定し、効率的な走り方を磨くなど準備を重ねてこられたことが良かったです。付き添いの同期・志村健太主将や4年生の言葉を力に変えて、自分のレースに集中することができました。今季は怪我の期間が長かったのですが、それらが無駄ではなかったことが今回の箱根で証明できたと思います。今季は怪我の期間が長かったのですが、それらが無駄ではなかったことが今回の箱根で証明できたと思います。今季は怪我の期間が長かったのですが、それらが無駄ではなかったことが今回の箱根で証明できたと思います。

10区 鶴見～大手町 23.0km



上杉 祥大
経営学部4年 東京都出身 東大和高校

1時間10分16秒 区間順位 11位
色々な方々に応援いただいた、何よりの力になりました。自分の中で4年間のいい締めくくりができたと感じています。レース中は、とにかく自分の走りを100パーセントすることを意識しました。最後、追いかけていた帝京大を追い抜けなかったのが悔しかったのですが、自分の走りは心置きなくすることができたので、自分を褒めてあげたいと思います。仲間が待っているゴールに笑顔で飛び込めてよかったです。

9区 戸塚～鶴見 23.1km



吉田 凌
経済学部3年 福島県出身 学法石川高校

1時間10分44秒 区間順位 15位
復路の1、2年生が良い走りや襷を繋いでくれたので、もう一つ順位を上げてアンカーの上杉さんに襷を渡そうとレースに入りました。序盤から思ったような走りができず、目標とするタイムを下回り悔いの残る結果となりました。後半のしんどかった時に、沿道からたくさんの声援をいただき、「ここから勝負」と背中を押していただきました。来年、この借りを箱根で返すため練習に励んでまいります。

8区 平塚～戸塚 21.4km



小池 莉希
経営学部1年 長崎県出身 佐久長聖高校

1時間06分16秒 区間順位 15位
初めての箱根駅伝で気持ちが高ぶっていました。監督からレース前に、落ち着いてレースに入るように助言がありましたが、前半から果敢に攻める走りになってしまい、後半ペースダウンする結果となりました。12月に怪我をしてしまい、直前まで出走できるかわからなかったのですが、周りの支えもあり最後まで自分らしく走り抜くことができました。1年生が先頭に立ち、創大駅伝部の新時代を作れるよう頑張りたいと思います。

7区 小田原～平塚 21.3km



石丸 淳那
経営学部2年 鹿児島県出身 出水中央高校

1時間03分42秒 区間順位 8位
15キロまでは、自分のイメージしたプラン通りのレース展開ができました。しかし、それ以降の走りを通じて、自分自身に必要な粘りとロード力において課題が見つかったと感じています。後半は、正直きついという気持ちが大きく、苦しい走りが続きましたが、沿道からの大学の応援が、力となり、最後まで走り切ることができました。来年こそ、自分自身の目標達成ができるように頑張っていきたいと思います。

6区 箱根～小田原 20.8km



川上 翔太
経営学部1年 千葉県出身 市立船橋高校

58分15秒 区間順位 3位
5秒後に繰り上げ組の選手16名が走るというプレッシャーと緊張が走るレースでしたが、自分らしい走りを意識しました。往路の選手の想いものせて、自分が走ると覚悟を決めました。登りが思うような走りができなかったですが、順位を押し上げることで、よかったです。この一年はリハビリ期間が長く、辛い時期もありましたが、どん底の自分をチームのみんなが支えてくれたことに心から感謝を伝えたいです。

世界から 日本全国から 応援ありがとうございました。



すべての皆様に感謝



志村健太主将

「創・攻・主・主・ゼロからの挑戦」とのテーマを掲げ、選手・スタッフが一丸となって箱根駅伝に臨み、第100回記念大会で走れる喜びをかみしめながら走り抜くことができました。関わってくださったすべての皆様に感謝しています。本心にありがとうございました。

来年、後輩たちが今年思いを受け継ぎながら、さらに高いレベルで躍動し続ける思いを引継ぎ、創価大学駅伝部への応援をよろしくお願い致します。

全員の力でつかんだ総合8位



榎木和貴監督

沿道やテレビの前からの熱い応援をありがとうございました。目標としていた総合8位以上は達成できませんでした。選手、スタッフ全員の総合力で、総合8位、5年連続シード権獲得の結果を出すことができました。往路の前半は良いスタートを切りましたが、レース途中から雨が降るなど悪条件の中で本来の力を出し切れず、往路の目標を達成できませんでした。来年の大会では更に強い創価大学駅伝部の走りを見せてほしいと思います。これからも変わらぬ応援のほど、よろしくお願い申し上げます。

見事5年連続シード権獲得



鈴木将史学長

往路7位、総合8位、そして5年連続のシード権獲得、誠にありがとうございます。困難に立ち向かい懸命に走り抜く選手たちの姿に勇気をいただきました。2日間懸命にサポートにあられた駅伝部関係者の皆様もお疲れ様でした。多くの感動を本学にありがとうございました。応援してくださった皆様にも心より感謝申し上げます。

一人ひとりの攻めの走りに感動



田代康則理事長

選手の方々、2日間の大激走、素晴らしい走り、5年連続シード権獲得という見事な結果を残してくれました。卒業生をはじめ、全国並びに世界各地から数えきれないほどのご支援や応援をいただき、本当にありがとうございます。フの指も本心に選手